

会 議 議 事 録

1 会議名	第8回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	平成28年1月22日（金曜日） 午前10時00分から午前11時00分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委 員)</p> <p>丸山 智 委員長 水流 潤太郎 副委員長 中出 文平 副委員長 有本 真由美 委員 遠藤 公一 委員 大井 盛久 委員 神林 茂 委員 鯉江 康正 委員 澤田 雅浩 委員 関 泰明 委員 高野 礼子 委員 年友 要子 委員 羽賀 友信 委員 樋口 勝博 委員 樋熊 憲子 委員 星野 正子 委員 本田 史朗 委員 三井田 由香 委員 山崎 和夫 委員 結城 和廣 委員 鷲尾 達雄 委員</p> <p>(事務局)</p> <p>金子政策監 近藤市長政策室長 大滝総務部長 渡邊地域振興戦略部長 広瀬市民部長 水澤福祉保健部長 森山商工部長 志賀土木部長 中村政策企画課長 鈴木政策企画課長補佐 腮尾40万人都市推進・地域振興担当課長 米山復興・中山間地振興・定住自立圏推進担当課長 小池市民協働担当課長 星福祉総務課長 伊藤商業振興課長 五十嵐農政課長補佐 高橋農林整備課長 小玉都市計画課長 小山土木政策調整課長 武樋教育総務課長</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人 7名 報道機関 3社3名</p>
5 欠席者名	<p>(委 員)</p> <p>阿部 里奈 委員 太田 裕 委員 古川 貞子 委員 村山 道子 委員</p>

6 議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 次期総合計画（原案）について（資料1、2） 4. その他 5. 閉会
7 会議結果の概要	第7回策定委員会までの経緯を踏まえ作成した総合計画原案について、意見交換が行われた。
8 会議資料	第8回次第 資料1 長岡市総合計画（原案） 資料2 政策・施策体系
9 審議の内容	
委員長	議事の「次期総合計画（原案）について」、事務局から一括して説明をします。そのあとに、質問、ご意見等を目次のとおり区切って頂戴したいと思います。そして最後に、当委員会として、計画原案に対する意見をまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、事務局より、説明をお願いします。
市長政策室長	(資料1、2に基づき説明)
委員長	それでは、まず15ページの将来像について、ご意見等がありましたら、お願いします。より良い記載表現などがありましたら、発言いただきたいと思っております。
委員	今、説明がありました資料の3ページ「計画の位置づけと期間」について、「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」の内容と、今回提案があった内容と非常にリンクしているところがありますが、これは27年度から始まって5年間。総合計画は、1年ずれて28年から10年間ですが、この評価の方法はどうしていくのかなということです。この若返り戦略は明確なPDCAサイクルのもとで具体的な数値目標を掲げ、客観的な指標を設定するという事でやっています。当然、今回提案があったこの計画にも埋め込まれているわけですから、この総合計画もそのような考え方で行われていくのではないかと推測するのですが、この1年間のズレの中で評価をどうしていくのか、この関係を教えてください。
政策監	おっしゃられるようにリジュベネーションと、確かに1年ずれています

	<p>が、そもそもリジュベネーションは、人口減少を食い止めるための具体的な施策を出して、それを評価して、見直すという、より具体的で、国が求める全国一律のものです。</p> <p>一方、今回の総合計画については、いろいろなつくり方があるのかもしれませんが、10年間の長岡市のまちづくりの方向性を、皆さんと共有をしたいということで行っています。したがって、評価という点については、総合戦略はしっかり毎年毎年、行っていくことにはなりますが、一方の総合計画においては基本構想部分を主に抜き出しており、それにぶら下がる具体的な事業や施策については、それぞれ専門的な計画を各部局で持っています。例えば、教育であれば教育の計画、福祉であれば福祉の計画を持っていますので、その計画をしっかりとやっていく中で、それぞれが評価をして、最終的にこの総合計画がうまくいっているかどうかを、総合的に判断していくという仕組みになっています。</p>
委員	<p>話はわかりましたが、そうすると、この総合計画では結果重視という考え方は、最初から持ち込まないということでしょうか。それとも、それぞれのところで具体的な目標を掲げていくのでしょうか。若返り戦略でも、目標の中に具体的な数値が載っていないものが2つあります。盛り込めなかったのだと思いますが、そういう配慮というか、ここでこういう結果重視というものを、総合計画の中で重視していくのか、それとも個別の具体的な施策をやるときにそれを求めるけれども、全体としてはないということでしょうか。</p>
政策監	<p>結論から言いますと、総合計画は、数値目標なりを定めていくというやり方はしないということです。具体的な数値目標のようなものを定めて、それがうまくいくか、いかないかという評価の仕方はしません。総合計画は、10年程度先の長岡市の歩むべき姿、目指すべき姿を皆さんから共有していただいて、それに基づいてそれぞれの部局がしっかりと計画を出し、その達成度をそれぞれがしっかりと検証していくというシステムを持っています。</p>
委員	<p>わかりますが、結局プランを立てて、アクションを起こして、チェックです。総合的に評価されると言ったのですが、それぞれが掲げた施策が、実際どういう効果を上げているかを、チェックして、さらにそれを改善してアクションを起こす。この流れは行われると思います。そのチェックが、具体的な指標等といったものに関係してくると思います。では、それぞれがやったものをまとめて、総合的に判断するというのは、どういうふうにしてやるのかなと思ったのです。</p>

<p>政策監</p>	<p>総合計画に基づいて、いろいろな事業をやっていきます。一つの例として計画があり、それぞれの審議会において議論していくようなことを申し上げていますが、それだけではなく、市民からの市長への手紙や、インターネットを通じてのご指摘等、あるいは議会での議論を通じて、それぞれ個別の評価につながるような議論がされていますので、それを総合的につなぎ合わせ、全体として長岡のまちづくりがうまくいっているかどうかを判断するということです。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、16、17 ページの「政策・施策体系」と、34 ページから始まる第4章の「みらいをつくる6つの政策」の内容について、ご意見等がありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>43 ページ、政策2「人材育成」です。「熱中！感動！夢づくり教育」は、素晴らしい事業で、充実していると思いますが、教育カリキュラムを見ていて感じるのは、仕組みはどんどん良くなっており、それを伝える素晴らしい先生方もたくさんいますが、結局は県の職員です。こういう充実した仕組みがあるからぜひ長岡市の学校に来たいと希望を出される先生方がいるという話も聞きます。しかし、何年間か長岡市にいても市外に行ってしまうという方もいて、本当に「熱中！感動！夢づくり教育」を利用しきれのかなと常々感じています。そうはいつでも、県の職員の採用を全部長岡市でというのは現実的には無理だろうと思いますが、やはり何パーセントとか、何か特定の事業等、ずっとその人が熱中と感動と夢を子どもたちに推進していくような人材が、固定的に長岡市役所の中において教育に携わってくれることが、5年、10年、15年という長期的な計画の中では避けては通れないのではないかと思います。</p> <p>具体的に、どういう表現をという考えがあるわけではないですが、ぜひ長岡市で採用された方がこの理念に基づいて、子どもたちの教育ができるような仕組みや環境を整備してほしいと思います。それを目標とするような表現がないと、このままでは何も変わらないのではないかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>46 ページの施策の柱2-2「子ども・子育て支援の充実」は、子どもたちに対して、また子どもがいる母親に対して非常にいいことですが、これは元気な子どもたちのことです。風邪を引きました、熱が出ましたと、保育園から親の企業に電話をかけても、忙しいので行けませんとかではなく、もし病気の子どもの出たときに、病後児・病児保育はありますが、母親に勝るものは</p>

	<p>ありません。いくら保育園の職員が頑張っても母親にはかないません。子どもはお母さんの顔を見ると、熱も下がることがあります。そういう時は企業が、せめて3歳までの子どもを子育てしている場合、早く帰ってよいよとか、だいぶ充実されている所はありますが、まだまだ不十分です。せめて長岡市独自で、一番早くそういうことができるとありがたいと思います。0歳から3歳までが一番そういう変動がある子どもたちです。県では、病後児保育せよ、病児保育をせよと言いますが、看護師さんやお医者さんに任せるのではなく、母親に少しでも任せてあげたいと思うのが私の気持ちです。</p> <p>そういうところを、少し付け加えることができないかなと思います。</p>
委員	<p>政策1の施策の柱の1-3で「男女共同参画の推進と人権の尊重」という項目を入れていただき、ありがとうございました。</p> <p>政策1から6は縦だけの関係ではなく、全て横にもつながるといような、全体の中で縦に横にという形でもって、施策が推進されるようお願いしたいです。男女共同参画も、全体の計画の中にも網掛けされるような理解でよろしいでしょうか。</p>
市長政策室長	<p>現行の総合計画では、確かに、今回の政策1で出ている「協働によるまちづくり」は序章という形で、全ての施策に、総合的に関係しているような考えで入れられていました。今回は、政策1から6と同じような流れになっていますが、委員のおっしゃるとおり政策1については、それぞれ全ての政策に反映、網羅するような考えで入れています。</p>
委員	<p>政策1「協働によるまちづくり」の42ページ、施策の柱1-6の「経営的視点に立った行財政運営の推進」ですが、現行計画でも出ていますが、「経営的視点に立った」というのはどういうことですか。</p>
総務部長	<p>ここで経営的視点をあえて入れたのですが、当然、自治体としての役割をきちんと果たすことを踏まえつつ、しかし、公の仕事をして税金を扱う団体として、民間の経営感覚を取りながら、自治体としての責務を果たしていくということが重要だろうということで表記しています。例えば、行政サービスの向上に努めて市民満足度の向上に努める。あるいは、無駄のない効率的な仕事を行う、あるいは情報公開をして市民の意見を聞きながら開かれた運営を行う。そういうことを意識して、こういう形で記載したところです。</p>
委員	<p>そのときに、「協働によるまちづくり」という考えが関わっているわけで</p>

<p>総務部長</p>	<p>す。そうすると、合併地域と旧市地域と、前回話もありましたが、全部で11の地域で、それぞれの課題などを十分に活かしつつ経営的視点から行う。協働によるまちづくりの中に、この経営的視点に立った行財政運営の推進ということでもあるわけですから、そう読み込んでいるということでもよろしいでしょうか。</p> <p>まさに協働という、先ほど全施策に関わるものとしての政策1という位置づけの中ですので、協働全体に関わる中での、市役所の経営としての姿勢として、申し上げたような感覚を持って運営をしていきたいということです。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、27ページから始まる第5節「地域資源」を活かした地域づくりについて、ご意見等、発言をお願いします。</p>
<p>副委員長</p>	<p>27ページの地域資源の例として、「歴史、文化、自然、特産品など各地域で育まれてきた地域資源（地域の宝など）」と表現されていますが、「景観」も非常に貴重な地域資源です。長岡には、魅力的な景観が各地域にありますので、ぜひ「景観」もこの例示に加えていただきたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>ないようですので、他に計画の内容等について何かありましたら、お願いします。どの章でも結構です。</p>
<p>委員</p>	<p>文言の記載をもう一度整理していただきたいのですが、43ページの政策2「人材育成」で、冒頭に「子育て支援や教育の充実、市民主体の文化・スポーツ活動への支援」という文言があり、48ページの政策の柱2-4「生涯にわたるまなびの場の充実」の中に、「文化芸術を市民の身近なものにする」と書いてあります。43ページの記載の中には、教育、スポーツと子育てに対する記載がありますが、文化の部分の記載が冒頭のところに見受けられないので、やはり政策全体の柱の中にしっかりとうたい込んだほうがいいのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>49ページの4行目に、「特に、技術・デザイン・経営」の中の「経営」という表現を、おそらく長岡大学を指していると思うので、「経済経営」にしてほしいと思います。</p> <p>全体としては、先ほどから目標値の話が出ていますが、これは基本構想な</p>

	<p>のでこれでいいと思います。10年間の計画なので、非常に変化がある中で、数値目標を上げてしまうと、逆に、それに縛られてしまいます。それを達成するためにどうしようという計画ではありませんので、そういう面では、この構想程度でいいのではないかと思います。その点は、各個別計画で、それぞれスタート期間も違いますが、きちっと総合計画のチェックをしていただきたいということで、お願いしたいと思います。</p> <p>それともう1つ、これは誰が読むのか考えたときに、選挙権が18歳に下がりますが、選挙権を持っている人が中心に読むとすると、学生がこれを読んだときにわかるのかな、と思います。例えば2ページに、長岡版総合戦略の「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」とありますが、ここを読んだ瞬間に、多分、何を言っているのかわからないという話になると思います。あと、長岡版ネウボラ等、SNSはお年寄りがわかりませんが、学生はわかるのでしょうか、それぞれ用語の解説を細かく付けていただければと思います。</p>
委員	<p>若者の意見にもつながるのですが、私たちは割合似た観点から議論がなされていると思うので、ぜひ、学長や理事長、学校関係者の方々の下にはたくさん生徒さんがおられるので、これを見て客観的にどうだろうなというような、やわらかな会議なのか、座談会なのか、茶話会なのか、ぜひ、私ども委員会としても、素朴な意見を聞かせてほしいと思います。具体的に、非常にビジョンが出ていて、数値などそういったものにあまりとらわれない、今後の行動計画につながればいいと思います。</p>
委員	<p>大変思い切った立派な計画をつくっていただいたと思います。</p> <p>3ページですが、具体的な施策事業については毎年度、話し合いをしながらやっていくということですが、多分これしか方法はないと思います。10年分の計画ですので、やはり基本的な考え方、大きな方向だけを間違いなくつくれば、この基本構想は十分に意義があると思います。あとは、毎年毎年、本当にチェックしながら、目標値が書いていない分だけ、おそらくどうやって説明するか、担当者は苦労すると思いますが、それは、ぜひ乗り越えてほしいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、総括という形で、副委員長お願いします。</p>
副委員長	<p>19ページから26ページの土地利用構想は、この委員会の下に土地利用部</p>

会を設けて、私が部会長として出て、策定委員会からも、私も含め4名、それ以外の部会員含めて、全体で今まで3回、ここまで土地利用構想の基になるものを議論してきました。

基本的な考え方は、先ほど市長政策室長からも話がありましたが、とにかく、今後人口減や高齢化は緩和したいけれども、それを前提としたとき、どうしてもやらなければならないコンパクトなまちづくりや、多様な自然や社会経済状況を反映した長岡市の多様性を踏まええました。

19 ページからの基本方針ですが、現総合計画の基本方針は4つありますが、今回は22 ページのところに、少し文言は変わるかもしれませんが「みんなで考え、実践する土地利用」ということで、市だけが考えるのではなく、行政と市民、事業者のみんなで、今後の長岡市全体のことを考えなければいけないということの一つ項立てして盛り込んでいます。

23 ページからの「利用形態からみた土地利用の方針」については、今までのように、人口が増えるから住宅地をどんどん増やすというのではなく、農地や自然地を適切に維持しながら、ただ、人口が減少しますので、それをどうやって維持・管理していくかについても、全容を踏まえなければいけないということで、ここでは、全体の基本構想の中での土地利用構想ですので、かなり簡略化した形で示し、第4節「土地利用構想」ということで、文章としては19～25 ページに記載しました。

26 ページに「土地利用構想図」ということで、現在の総合計画を少し直していますが、基本的に土地利用構想の考え方そのものは、今動いている総合計画を踏襲している部分が多いので、大きな変更ではありませんが、まとめています。

あと、土地利用構想に関わる場所として、先ほど申し上げたように、人口減少や高齢化というところが大前提になりますので、9ページの「人口の推移」で、ただ高齢者が増えていくという書き方で本当にいいのかというあたりを、少し事務局に考えていただきたいです。

日本全体がどういう構造になっているかという、昭和21年から25年までに生まれた団塊の世代がこの中で高い割合を占めていて、高度成長期に人口が増加しましたが、今後高齢社会の中で、その部分の対応を一番考えていかなければいけません。その方々は、去年の国勢調査の段階で70歳になっており、この総合計画が終わるときは80歳になっています。これは10年後までの基本構想で、先ほど骨太でいいと言われましたが、骨太ならばなおさら、淡々と高齢人口が増えていきますという書き方ではなく、10年後の長岡の将来像を想像できるような形を考えていただきたい。いずれ圧倒的に、高齢人口も減ります。そのあたりや誰が担うのか等も含めて、それがリジュベネー

副委員長	<p>ションだと思うので、もう少し事実と 15 ページ以降の今後の将来像のあたりでうまく書いていただければと思います。</p> <p>15 ページの「前より前へ！長岡 志を未来に活かし輝き続けるまち」というキャッチフレーズですが、「前より前へ！」は前回の総合計画を踏襲しており、現行計画の、これまでの歩みを肯定した上でさらに繁栄と、そういう意味合いがあるのかなと思います。躍動感がある「前より前へ！」という言葉に対して、各委員から「これがいいよね」という言葉があったように記憶しています。そして、「輝く」ではなくて、「輝き続ける」という言葉づかいはきっと、人口減少の中でも長岡市は残っていくんだ、ずっと存在感があるままとして輝き続けるんだ、という意味を表していると感じました。大変いいと思います。</p> <p>そして、全体の総合計画の基本トーンが、長岡の各地域は非常に魅力的な地域がある、そこが交流、団結していく、そして、長岡の豊富な人材、志が団結していくという、これが基本トーンになっていると思います。そういう基本トーンのもとで、施策の方向性が打ち出せて、冒頭、この会の始まりの時に、市長が「ぜひ明るい未来を感じ取れるような総合計画を」ということ言われました。それに対して、この策定委員会として一定の答えが出せたのかなと考えています。</p> <p>先ほど、学生や若い世代に、これがどのように受け止められるのか聞かせてほしいというリクエストがありました。学生たちは今週か来週に授業が終わってしまうので、どんな形がとれるか工夫してみたいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。皆さん方から、もしご意見がありましたら、お聞きしてから、私から一言述べたいと思います。</p>
委員	<p>15 ページから 43 ページに、長岡の人の心に息づく「米百俵」の精神というのが 4 か所あります。長岡の人はわかると思いますが、学生や新しく来た市民はわからないと思います。1つ、43 ページだけ「長岡市は、“人づくり”を第一とする「米百俵」の精神を受け継ぎ」と、こういう書き方ならわかりがいいと思いますが、そうでないと漠然とし過ぎて、どこにスポットを当てて「米百俵」の精神と言っているのかがわかりにくいと思いますので、そこを統一したほうがいいと思います。</p>
委員	<p>今回の資料は、前回の皆さんの意見がとてもうまく取り入れられて、すごくいいものができたと思っています。</p>

委員	<p>11 ページに円グラフがありますが、紺色のところは、拡大鏡で見てやっと「製造業 22%」とわかりました。この色合いは、わかりづらいので、パステルカラーにしたらいいのではないかと思います。お考えください。</p> <p>49 ページの政策3「さらなる産業の活性化」で、「長岡市は、米を中心とした品質の高い農作物などの農業、高度な「ものづくり技術」を持つ企業集積に代表される工業、県内第2の商圈を持つ商業」と、農商工のバランスが取れて、よく書かれています。工業の中で、醸造関係や米菓などそういった長岡の環境の中で育まれたものをもう少し強調して、他の市町村との差別化をしたほうがいいと思います。</p>
委員	<p>27 ページの第5節「地域資源」を活かした地域づくり」と、併せて49ページの政策3「さらなる産業の活性化」ということで、当然、地域資源をいかした形で産業の活性化に結び付けていくと思うのですが、今、「長岡花火」が地域資源の最初に書いてあります。長岡花火、長岡まつり、大花火大会は、かなり有名にはなっていますが、何をもち「長岡花火」という位置づけ、いわゆるブランド化が全く戦略的に整っていませんでした。世にもっと出していこうというときに、ブランドと言われているところが当然必要になってくるので、今、ブランドをつくり上げています。</p> <p>併せて、錦鯉、火焰土器、食べ物では栃尾のあぶらげ。栃尾のあぶらげは大変売れていて、首都圏から大変多くの注文があるけれど、全く注文に応えられていないと相談がありました。栃尾のあぶらげを作りたいけれど、どうすればいいか。まずは、栃尾に工場を持ってきてもらわないとだめでしょうねと。「栃尾のあぶらげ」というものを、誰がどうブランドを付けたかわからないけれど、そういう部分にきちっとした対応ができていません。</p> <p>本来であれば合併したので、各地域が育ててきたそういったもの、地形、文化的な部分で、どうしても少し地域に委ねなければいけない地域資源もあるかと思いますが、もうここにきて、長岡という地域の中でのブランドづくりをきちっとしていかないと、この産業に結び付けたまちの活性化にもつながらないし、これをもってして、長岡から全国、世界へ出していこうというのはどうかという話になると思うのです。</p> <p>栃尾のあぶらげの話になってしまいますが、栃尾に本社を置いて、物流を考えたときには、関東圏に工場を持って来て、どんどん売っていく戦略だっただけで当然あっていいはず。ただ、長岡花火においては、全国各地であげる、世界であげるときに、今現在、残念ながら長岡市に花火工場はありません。製造する花火師も残念ながらいないという中で、何をもちブランドとして</p>

<p>委員</p>	<p>いくつかは、非常に必要になってくると思います。そういった意味で、簡単に地域資源を活かした形のまちづくり等、そういったものを掲げるだけではなく、ブランドということ、今後きちっと明確にしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>教育、福祉の部分から2つほどお願いがあります。まず、47 ページ施策の柱2-3「質の高い教育の推進」の写真の上に※印で「インクルーシブ教育」について掲載されています。その言葉を、どこにというのは具体的に思い付かないのですが、あえていうなら、本文中の「どの子にもわかる授業の実現に向け」のところになるのでしょうか。このインクルーシブ教育については、法律に基づいて、この春から完全実施が義務付けられているところでありますので、よかったら文言として「インクルーシブ教育」というのを注釈だけではなく、ぜひ本文中に入れていただきたいと思います。</p> <p>もう1点は、57 ページの施策の柱4-2「福祉・医療体制の充実」の中で、中段のあたりに「障害のある人も生きがいを持って地域の中で活躍していけるよう」という表現がありますが、「地域の中で活躍する」という表現に、違和感を持ちました。「障害のある方が安心して暮らしていけるように」であれば納得できるのですが、あえて活躍をする必要があるかどうかというところを疑問に思いました。全体の施策を見ても、障害のある方について触れているところは、多分、この文言だけだと思いますので、教育にも関係がありますが、今は明らかに医師の診断等で障害のある方以外にも、いわゆるグレーゾーンといわれる児童生徒も多くいます。その部分に係る教育の問題も以前より多くあるため、先ほど他の委員から、「熱中！感動！夢づくり教育」を長期にわたって推進できる方の配置をとという話もありましたが、それと合わせて、障害のあるとか、あるいは障害の診断がなくても集団の中で勉強していくことが難しくなっている児童生徒への支援体制の充実を、専門の方が長期にわたって行えるというのを、この文言の中の話ではないですが、実際の問題として、その充実をさらに図っていただきたいと思っています。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にありませんでしょうか。</p> <p>それでは、皆様方のお力添えとご意見をいただき、原案をここまで作成することができました。心から感謝を申し上げたいと思います。本日、いただいた皆様方の貴重なご意見を、事務局で取り入れ、また素晴らしい案をつくりたいと思っています。本当に長い間、ありがとうございました。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>どうもありがとうございました。この計画の原案について、これから議会</p>

	<p>等で協議をしたり、市民の方々にパブリックコメントをいただいたりします。最終の仕上げの段階にきておりますが、委員の皆様から、まだまだ忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。言葉の付け足しや修正といった、軽微なことでも構いませんので、もしありましたら、事務局にご意見等いただければと思います。</p> <p>先ほど、ご意見ありましたとおり、この委員会や議会だけではなく、市民グループやNPOなどでも、全体的なことではなく、特化するようなことでも構いませんので、市の事務局とも議論してみたいというようなご意見があれば、ぜひ話していただきたいと思っています。まだまとめの段階ですので、そういった声があればお聞かせいただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。本日の議事は、これで終わらせていただきます。それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
政策企画課長補佐	<p>(第9回の開催日程について報告)</p> <p>それでは、本日、原案としてお示ししたものを、今後、パブリックコメント等を行い、案という形にとりまとめ、第9回に提示したいと考えています。本日は、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。これをもちまして、第8回長岡市総合計画策定委員会を閉会します。</p>